

# 脱炭素 (ゼロカーボン) 経営セミナー

【第1回】

脱炭素戦略のあらし

2023. 8. 24

特定非営利活動法人KES環境機構

# CO<sub>2</sub>排出影響評価 と 削減計画 〔1〕

## 1. 脱炭素戦略の適用範囲を定める

※スコープ3を含めるか？

スコープ3：「自社の活動に関連する他社のCO<sub>2</sub>排出(量)」(15のカテゴリに分類)  
…正確な把握には手間が掛かりすぎて非現実的？

## 2. CO<sub>2</sub>排出実態の把握とCO<sub>2</sub>排出項目の抽出

どのエネルギー源を

どの活動や製品・サービスのために

どの設備、機器、車両を使用することによってどれだけ消費し

その結果、夫々どれだけのCO<sub>2</sub>を排出しているのか？

(算出用テーブル(例)を Excelシートで別添)

## 3. CO<sub>2</sub>排出による影響評価

各CO<sub>2</sub>排出項目による 環境、社会、組織への影響を評価する。

影響度評価の指標：先ずは各CO<sub>2</sub>排出項目毎のCO<sub>2</sub>排出量でよい。

# CO<sub>2</sub>排出影響評価と削減計画〔2〕

## 4. 著しいCO<sub>2</sub>排出項目

CO<sub>2</sub>排出項目のうち、  
それによる影響が著しいと考えられるものを特定して優先順位付けし、  
削減目標 或は 管理の対象を選定する。

## 5. CO<sub>2</sub>排出削減目標及び削減計画の決定

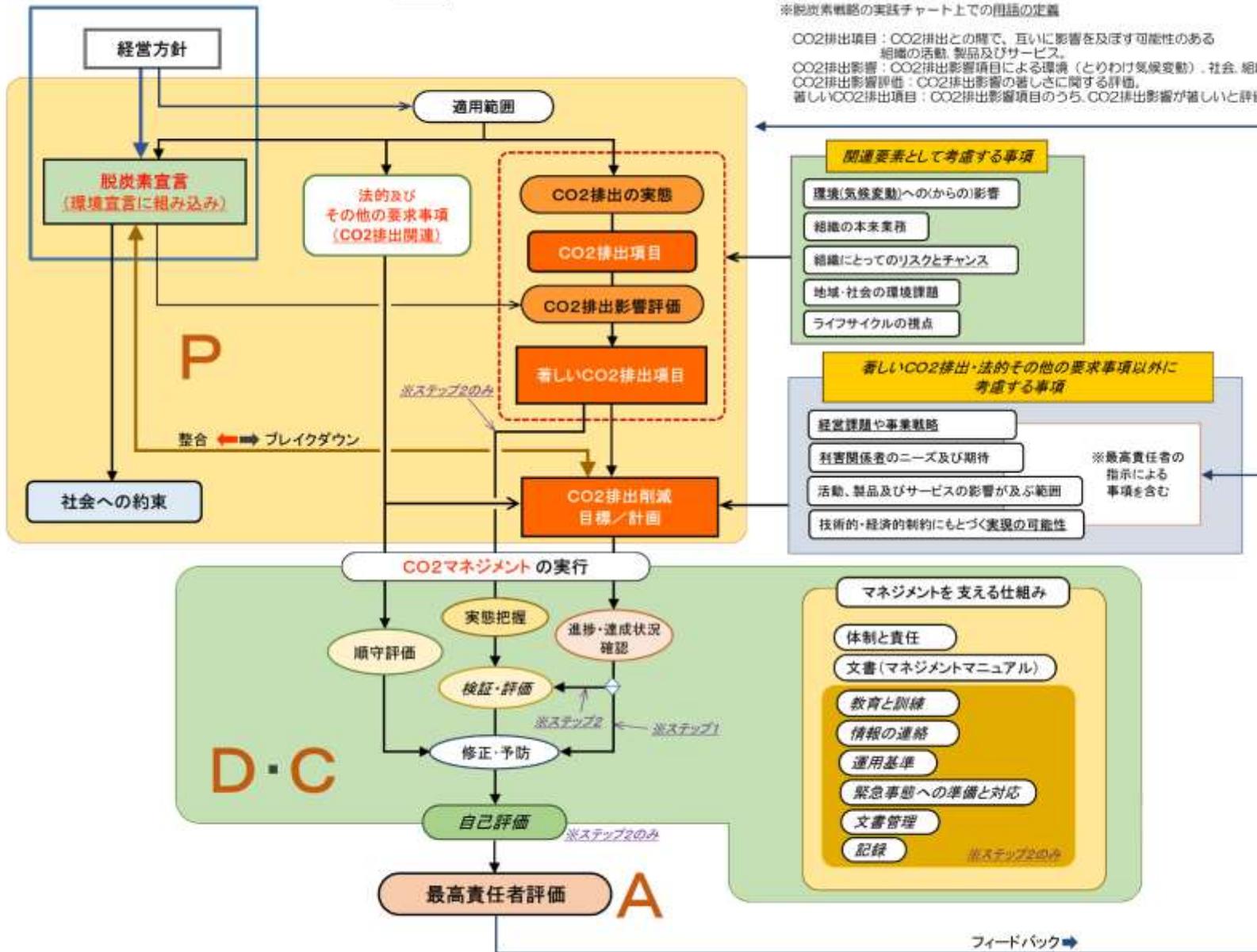
《考慮すべきポイント》

- (1) 組織の経営課題や事業戦略
- (2) 組織にとっての  
リスク（取り組むリスクと取り組まないリスク）やチャンス
- (3) 利害関係者の要求・ニーズ・期待
- (4) 活動、製品及びサービスが影響を及ぼす範囲
- (5) 技術的・経済的制約にもとづく実現の可能性

# “脱炭素”戦略の実践チャート (KESシステムの活用)

※脱炭素戦略の実践チャート上での用語の定義

CO2排出項目：CO2排出との間で、互いに影響を及ぼす可能性のある組織の活動、製品及びサービス。  
 CO2排出影響：CO2排出影響項目による環境（とりわけ気候変動）、社会、組織への影響。  
 CO2排出影響評価：CO2排出影響の著しさに関する評価。  
 著しいCO2排出項目：CO2排出影響項目のうち、CO2排出影響が著しいと評価されたもの。



# CO<sub>2</sub>削減目標・計画・施策づくりの視点 〔1〕

## (1) 先ずは… 省エネ！

- \* 「エネルギー消費量の最少化」が先決  
「**脱炭素**経営」の前に「**省エネ**経営」の実現  
「本当にやり尽くしているか？」を点検

## (2) 「使用するエネルギーの電力化」！（CO<sub>2</sub>排出の“スコープ2化”）

- \* 自力で出来る「**組織の排出係数**(※)」低減の第一歩
- \* **脱炭素**とは「エネルギー ⇒ ゼロ」ではなく「**排出係数 ⇒ ゼロ**」

$$(※) \text{組織の排出係数} = \frac{\text{組織が排出するCO}_2 \text{ (トンのCO}_2\text{)}}{\text{組織が生み出す価値}}$$

## (3) 活動、製品及びサービスやそのあり方を見直す

- \* CO<sub>2</sub>を出さずに実行・実現できないか？  
同じ価値(効用)を、より少ないCO<sub>2</sub>排出で獲得できないか？  
そのものを廃止できないか？

# CO<sub>2</sub>削減目標・計画・施策づくりの視点 〔2〕

## (4) エネルギー源の変更或は調達先の変更…が戦略の中心

- a. 「エネルギーの電力化」が限界にまで達している場合、  
現実的には、より排出係数の小さな電力へシフトするしかない。  
(⇒「100%再エネ」は 究極・理想の形だが…)

但し、排出係数が低い電力へのシフトにあたっては  
供給安定性の検証が必須！

- b. 再エネ(主に太陽光)による自家発電で賄える電力の用途と電力量を  
予め把握しておく。

←再エネ化のチャンスを待ち伏せ  
同時にリスクの見極めでもある。

※組織の死活に関わる電力を“不安定な電源”に頼ることには慎重であれ。

# CO2削減目標・計画・施策づくりの視点【3】

- (5) 設備、機器、車両を新たに導入する？
  - 取り替える？
  - 設置場所や配置を変える？
  - 断熱を強化する？
  - 使用を取りやめる？
  
- (6) CO2排出要因に対する視野を拡げ、  
組織のあらゆる活動との関連から検証してみる  
《9・10頁参照》
  
- (7) 短期と中長期の両睨みで取り組む  
すぐに取り掛かるべきものとジックリ戦略を練るべきものに分けて、  
自社なりの筋書きで取り組む。《11頁参照》

# CO2削減目標・計画・施策づくりの視点〔4〕

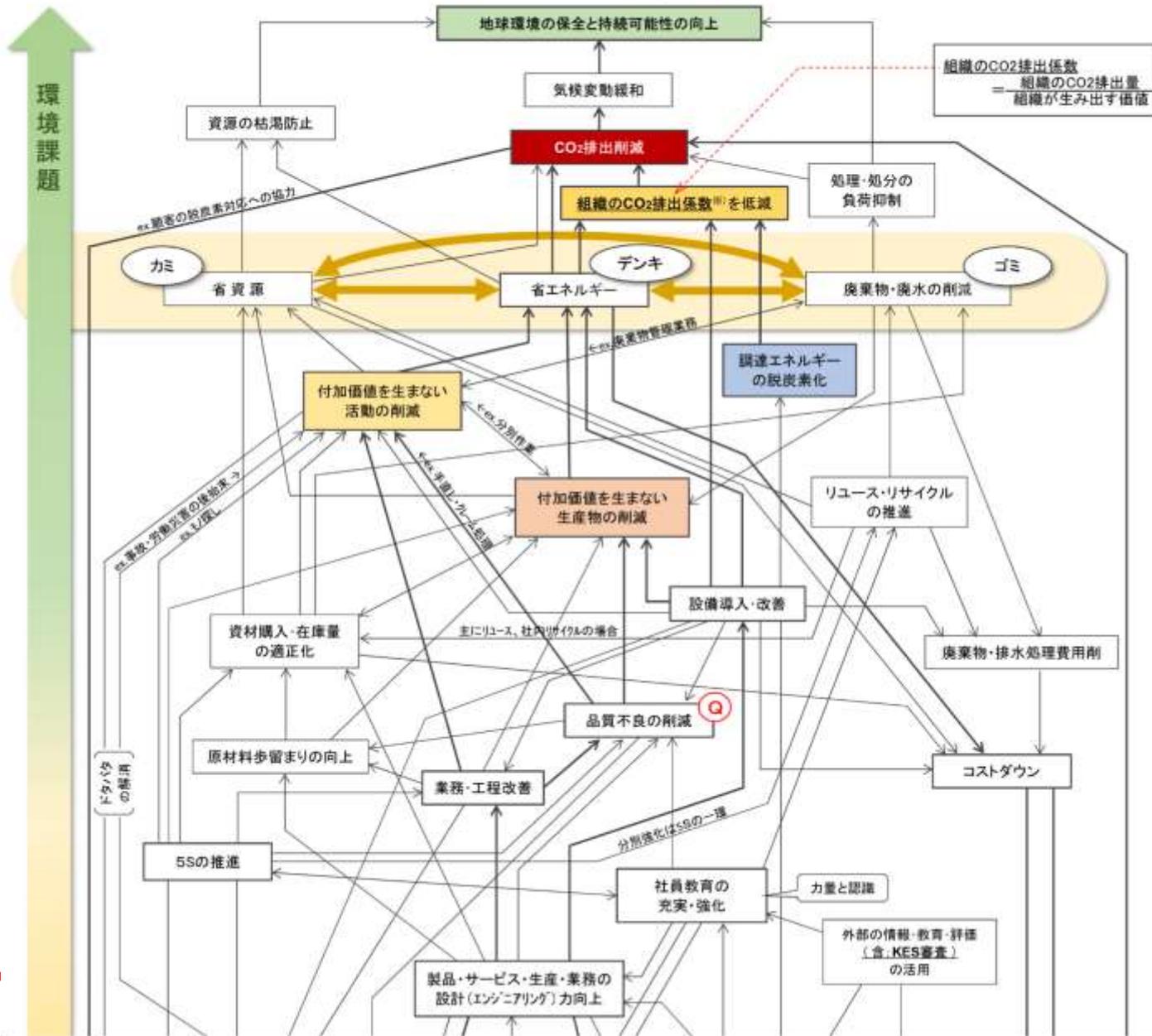
(8) コストの視点を忘れずに！

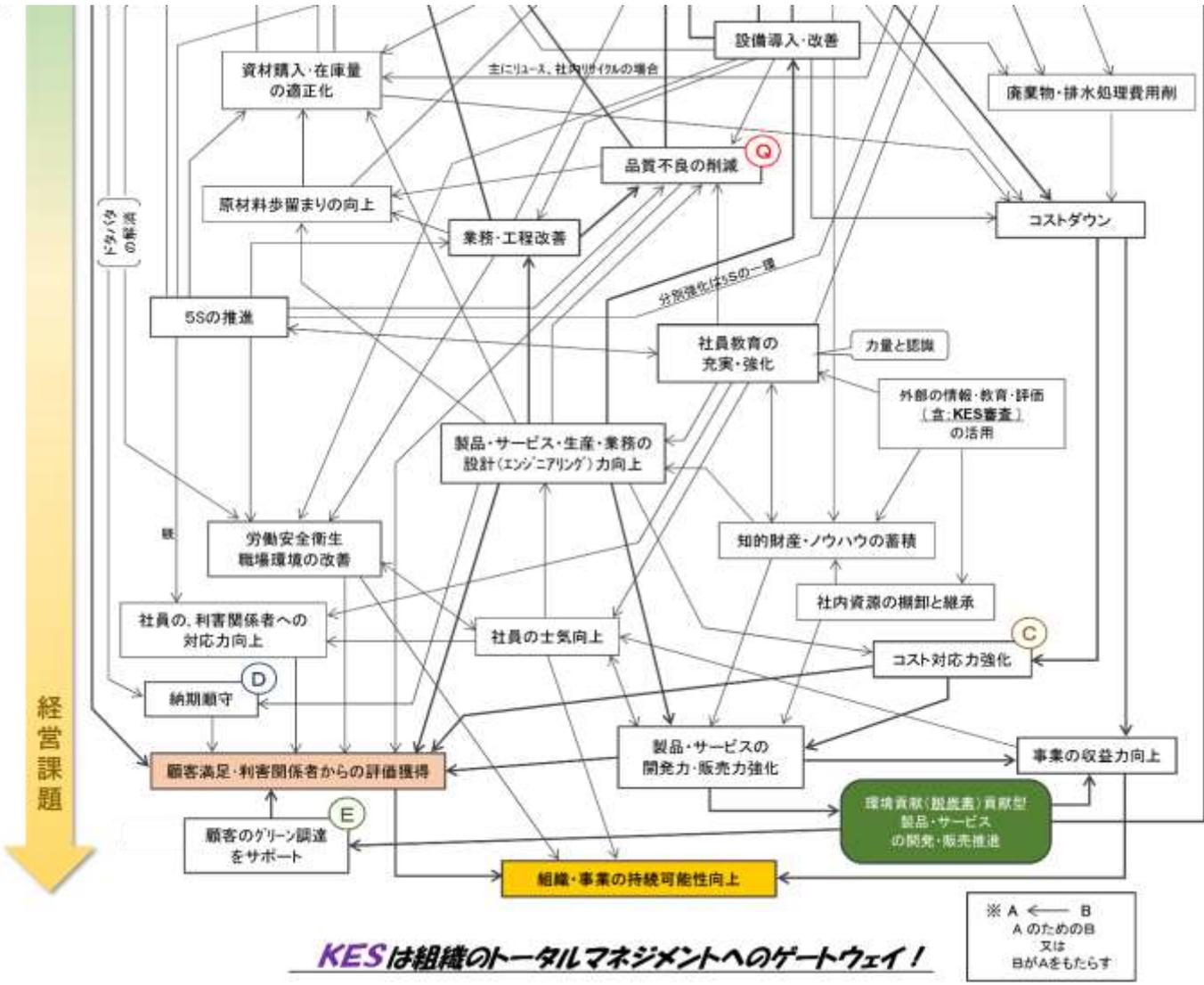
省エネはコスト削減に結びつきやすいが、**脱炭素**には難しい面もある。  
先ずは **省エネ**（限界削減費用<sup>(※)</sup>がマイナス）の範囲で進めるが  
それ以降のCO2排出削減コストを何で賄うのか？  
⇒クレジットや補助金の活用も視野に入れる。

※限界削減費用： 温室効果ガス(CO2)排出量を追加的に1トンを削減するために必要な費用。  
省エネ効果による1トンあたりの費用削減効果が、同じく排出量削減コストを上回る場合を「限界削減費用がマイナス」と言う。

(9) 出来れば・・・新たなビジネスチャンスに繋げることをめざす。

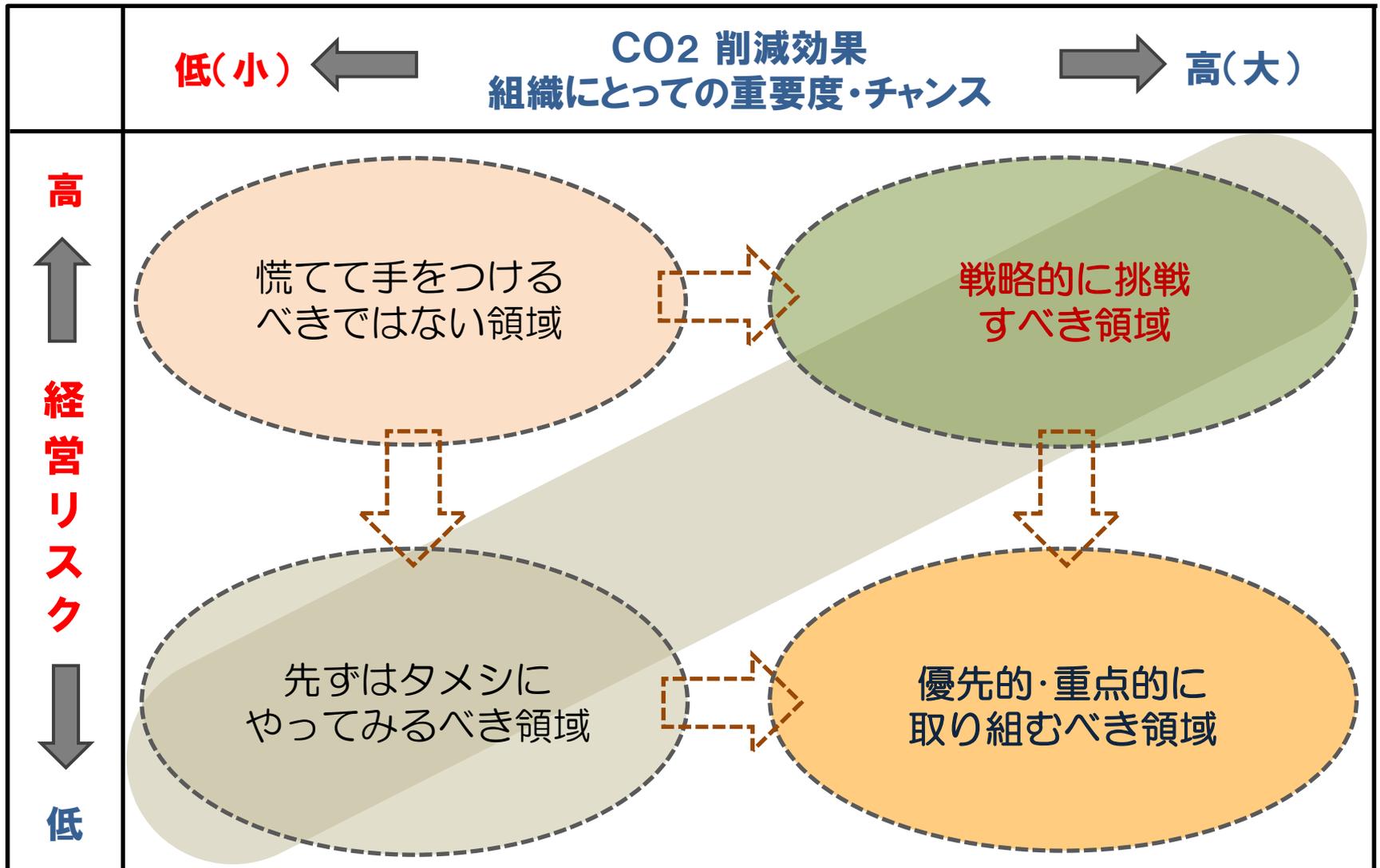
# 改善目標及び施策相互の相関と連鎖 (CO2 排出削減 に着目して)





**KESは組織のトータルマネジメントへのゲートウェイ!**

# リスクとチャンスにもとづく脱炭素戦略の実践



環境マネジメントの仕組みを  
組織の脱炭素戦略のための  
プラットフォームとしても御活用ください

ありがとうございました。